

# 文語の苑

メールマガジン第八号（平成二十四年二月）

## 砂嵐

日本でほとんど経験できない自然現象で砂嵐というものがある。中近東アフリカではごくありふれた現象で昔外人部隊を主題にした古い映画などにはよく見られた。クウェイトに勤務した頃はしばしば高速道路を走行中砂嵐に見舞われ、ワイパーで砂を払いつつ視界不良の中苦労したことを覚えている。カイロにはハムシーンと呼ばれる名物の砂嵐がある。ハムシーンと言うのはアラビア語で五十のことだが、この砂嵐が通常五十日間続くのでそう呼ばれていると聞いた。ハムシーンの朝はロンドンの霧のようにどんより曇って、街路に立ち並ぶ柳の大樹がいかにも憂鬱そうに見える。エジプト勤務をした人にはなじみの風物である。

千九百八十四年観光で曾遊の地カイロを訪れた。大使公邸に招かれ、例によって玄関でサインブックに記帳した。ふとページをめくると一句が目にとまった。「逝くときはかかる昏さや砂嵐」とある。作者は当時日本鋼管の社長だった方である。前に大使を表敬訪問され、その折署名に加えられたものである。そのとき一瞥しただけのこの俳句はその後永く私の脳裏に刻まれた。もしこの句が「行くときはかかる暗さや砂嵐」であったならば、わたしは疾くにこれを忘れ去っていたに違いない。死に臨んで次第に意識が遠くなり、闇が迫ってくる様を強く訴えるのは、「逝」と「昏」の二つの漢字の為せる業である。砂嵐をこのような境地に喩えたのは社長の年輪を感じさせるものであるが、そこに更にこの二字を用いたのは彼の漢学的素養である。思えばこのような表現力は戦前の教育を受けた者にはそう珍しいことではなかった。

適切な漢字の選択も俳句表現の重要な要素であるはずだが、現代の国語教育では恐らく捨て去られてしまったことであろう。文語復興運動の視野の中に収めなければならぬことの一つである。

愛甲次郎

# 文語の苑

メールマガジン第八号

小倉百人一首 八 小野小町

花の色はうつりにけりな いたづらにわが身世にふるながめせしまに

絶世の美女であり、万葉集と古今集の中間の、漢文化全盛時代に活躍した六歌仙と呼ばれる六人の歌人の一人、小野小町は、幾多の伝説に包まれては居りますが、確かに実在した人であり、紀貫之や紫式部などと同じ、中級貴族の一人だったと思は(わ)れます。

どうでせ(しよ)うか。日本の和歌の歴史で、一番優れた女流歌人を五人選ぶとすれば、多くの人が、その一人に、小野小町を挙げるのではないでせ(しよ)うか。

中でもこの歌は、古来名歌として、人々に愛誦されて来ました。若い、華やかな青春の時節が過ぎて、自らの容色の衰へ(え)を感じた女性、而もたった少し前まで、誰からも持て囃された美女が、ふっと、これは花が、一ときあでやかに咲いて、色褪せる自然界の営みと同じではないかと自省する。そんな気持が、和歌の技巧を尽して、しかも情感豊かに詠は(わ)れた秀歌です。

平安時代以降の和歌では、当り前のことになりましたが、人事と叙景が、分ち難く照応します。この歌の下の句を漢字を入れて書けば、「我が身世に降る長雨(ながめ)せしまに」とも、「我が身世に古る眺めせしまに」とも書ける。つまりこの歌の詞句には両義性があり、これを掛け詞と言ひ(い)ます。掛け詞をいかに上手に使ひ(い)こなすかが、この時代以降の歌人にとって、重要な技巧の一つになります。

古今集には、小野小町の歌が十八首収録され、秀歌が多く、それらの歌から、小町の生の遍歴を辿ることができます。小町は随分長生きしたらしい。幾つかの寺に、小町百歳の像と言は(わ)れる老醜の小町を彫った木像が、残されてゐ(い)ます。中世の説話や、「卒都婆小町」などの能では、老婆になった小町が主人公です。

一生外国暮らしが多く、国語や日本の古典にはど素人の私が、人におだてられて、豚が木に登り、敢てこんな百人一首の解説までするのは烏滸の業ですが、更に恥の上塗りをして、以下に、老婆となった小野小町を題材にし、「文語の苑」ホームページに掲げた文語の詩を、少し手を入れて再録致します。盲蛇に怖ぢぬ拙き手遊びをお嗤ひ(い)下さい(文筆を職業とせぬ者の、上の不穩当なる差別表現も、御寛恕お願い申し上げます)。

百夜通ひに深草の 公達(きんだち) 仆る(\*)と聞きしかど

驕りの春の盛りにて 露(こ)ころにも留めざりき

はかなきものは花の色 ながめせし間にうつろひぬ

身をつき草の根を絶えて 流るるままにさすらひぬ

関寺近き夕まぐれ 卒塔婆に掛けて月を待つ

破れ衣につくも髪 影恥しき吾が姿

人聲絶えて悽愴の 逢魔が時となりにけり

迷ひ出でたる少将の 幽魂吾を責め止まず

(\*) 深草の少将は若き小町に思ひを掛け、百夜通ひがならず、九十九夜で仆れた

加藤淳平

# 文語の苑

メールマガジン第八号

## 文語歌曲「見わたせば」(和歌の唱歌)

日本人が始めて五線譜に接したのは明治になってからのことであろう。メロディを音符に定着させることは調性された楽器があればかなり容易にできたやうですが、それに合はせた歌詞の方はさうは簡単には作れません。そこで和歌が登場します。「みがかずば」や「君が代は」、あるいは「海行かば」がその例です。

その後、大正八年、山田耕筰が紐育はカーネギーホールで自作の交響曲作品を上演しましたが、その費用をまかなふ金策の宛がはずれたところ、親日家の夫人が救つてくれました。その御禮に、「百人一首」の英譯和歌をもとに作曲して獻呈しました。「幽韻」と題されてゐます。筆者がそれを知つたのは、E・ヘフリガーが歌つてゐると聞いたことから、 $\text{C}\flat$ ではなんと、日本語で歌つてゐます。小野小町、右近、和泉式部、式子内親王、二條院讃岐の歌で、ローマ字を讀んで歌つたにしては、纏綿とした歌ひぶりに日本の歌であることを感じさせます。

因みに、同じCDには細川俊夫作曲の「戀歌」も入つてゐて、これも日本語で歌つてゐます。磐姫皇后、曾禰好忠の和歌、それになんと狭野弟上娘子の「君が行く道のながてを繰り疊ね焼きほろぼさむ天の火もがも」も採上げられました。明治初期の和歌採用とは違つて、積極的に日本の歌を歌曲として作り上げてゐます。記憶曖昧な餘談ですが、かつて上智大學でカトリックの神父と眞言宗の僧侶とが一緒に歌つた曲の一つが細川俊夫の作品で、グレゴリアンと聲明を掛合はせたやうな曲に或る種の感銘を覺えたことがあります。

見わたせば、青やなぎ、ノ花櫻、こきまぜて、

みやこには、道もせにノ春の錦をぞ。

佐保姫の、織りなして、降る雨に、そめにける。

これは明治十四年の「小學唱歌集」に載せられたもので、古今和歌集にある素性法師の歌「見渡せば柳櫻をこきまぜてみやこぞ春の錦なりける」を取込んだものであることは明らかです。二番は他の作者による秋の歌で、紅葉による秋の錦に對應させたため、春をつかさどる佐保姫を加へたと思はれます。素性法師は、「みやこぞ」の「ぞ」といふ強めの助詞によつて自然の錦は秋だけではないと主張したのです。

ところが節、つまりメロディは後に「むすんでひらいて」と歌はれる曲と同じものです。やさしい曲なので世界中で童謡、民謡や讚美歌として歌はれたやうですが、日本でも實に様々な替へ歌が作られたことでも知られてゐます。「見渡せば」が、明治の末になると軍歌に替へられて昭和の始め頃まで陸軍や海軍で別々の歌詞で歌はれたさうです。一方日本のプロテスタントにも取入れられて讚美歌として使はれましたが、終戦後は軍歌も讚美歌も消えて、「むすんでひらいて」と幼児のための歌となりました。

作曲はジャン・ジャック・ルソーによるものだとの説が有力ですが、元は英國の歌だとか、諸説があります。閑話休題、このメロディには「見渡せば」の歌詞のが一番しつくりすると、私は感じてゐます。

# 文語の苑

メールマガジン第八号

忘らるゝ技術立國

平成二十三年十二月十三日（火）晴

本年平成二十三年は立國の要に就き、考へさせらるゝ一年にてありけり。三月十一日の東北大地震災とそれに伴ふ原發事故による被害額は天文學的數字に上り、一方國の財政赤字は膨脹を續け、對外的には沖繩普天間基地の移設、TPPへの參加問題など山積する問題に民主黨政權は野田内閣の發足により漸く對策前進の曙光を見るに至る。

この間、多くの識者、評論家テレビなどメディアに登場して、問題解決の指針を提案す。曰く、原發の廢止と再生可能エネルギーへの代替、日米安保の見直しによる沖繩基地の縮小、日本農業生存のためにTPP不参加など聲高に主張せられ、その反對論は唱ふる人自體少く、國論は概ね斯かる論調に集約せられたるが如し。

これらの論に「技術」の視點缺くるを感ずるは豈吾人のみならむや。まづ原子力に就きて言はば、終戦後我が國の原子力研究は、米英佛露の謂はゆる戰勝國に後るゝこと二十年なるも、この間は占領軍により研究すら禁ぜられ、獨立恢復後も渉々しき進展もなき空白期間にして、戦前の研究との連關も失はれ、實質倍以上の遅れあり、これ事故後の處理にも影響與へたるらむ。明年全ての原子爐を停止し、再度の空白生ぜば技術の遅れ取戻し不能とならむ。沖繩の基地移轉にしても安全保障戰略上必要とならば、邊野古新設は、附近の環境にも配慮せる最新技術による基地を目指すべきに、基地反對論に押され、その提言聞くことなし。

敗戦後我が國は領土を失ひ、國內に資源なく、食糧不足し、焦土に立ちて如何に生くべきかの方途すら見定め難き中、貿易立國、技術立國を標榜して大いなる經濟發展を遂げ來れり。但しこの時の技術革新は外國よりの導入技術が主たり、今日のそれは新技術の創造を要し、我が國技術者の能力開發こそ急務なれ。

然るに軍事技術は勿論、どのみち廢爐なれば原子力技術など不要と言外に仄めかすの論、原子爐も安全に動かせぬ技術にて革新的技術産むは不可能に近きこと無視す。更に今日音楽、スポーツなど世界に挑戦する若者懸命の練習に勵むに、技術者を目指す學生、高校の物理も化學も履修せず理工學に進學する者激増の趨勢、果して能く世界に先んずるを得むや。

斯くして、工業分野のみならず、農業、醫療などの分野にて革新的の低價格化實現せず、長期に亙る經濟停滯を招くに至る。これ技術の輕視による必然の結果ならずや。

十一月十一日、野田首相TPP参加に向けたる多國間協議に入るを表明す。食糧自給率低下し、大量の輸入に頼ること、エネルギー、工業原材料と共に圓滑なる貿易條件の確立を要すれば當然の結論、一夜明くればTPP不参加の論忽ち影を潛む。嗚呼。

# 文語の苑

メールマガジン第八号

## 御子左家の系譜(下)

(7)

上の手枕の事件は、年代が定かではありませんが、もう一つの事件は、はつきり解つてゐます。一一〇二年のことです。手枕の事件から、二十乃至三十年くらゐ後だと察せられます。まづは、祐子内親王家紀伊(いうしないしんわつげのきい)の歌を見てみませう。これも百人一首の歌です。

音に聞く高師の濱のあだ波はかけじや袖の濡れもこそすれ

「高師の濱」は、現在の大阪府堺市あたりの名所で、歌枕として有名です。

歌枕といふのは、景色の美しさなどで有名な場所の地名を、その場所とは無関係の歌の中に読み込むのです。その地名を歌枕と言ひます。

関係のない地名とはいへ、そのイメージが、特に戀の歌の場合などは、美しい雰圍氣を醸し出してくれるのです。

たとへば、定家の「來ぬ人をまつほの浦の夕風に焼くや藻鹽の身も焦れつつ」(百人一首)の歌で知られる「松帆の浦」は淡路島北端にある歌枕です。

濱邊で戀人待つてゐる情景が聯想されますが、「身も焦れつつ」だけが、いはば歌の本體で、「藻鹽の」までは、「身も焦れつつ」を引き出すための序詞(じよことば)なのです。

海岸で待つてゐるわけではありません。

作者は定家ですが、女になりかはつて、男を待つてゐる歌を作つたのです。當時の貴族の女性は、自宅で男を待つてゐます。海岸でデートすることはありえませんが。

しかし、「松帆の浦」を入れることによつて、白砂青松の眼も彩な光景を聯想させて、歌の背景としてゐることを忘れてはなりません。

(8)

さて、紀伊の歌は、その名高い高師の濱の波を袖にかけないようによませう。袖が濡れてしまつては困るから、といふのが字面の意味です。

和歌で「袖が濡れる」と言つたら、まづは、戀の涙で濡れてゐるのだと思つて間違ひありません。

「あだ波」とは、いたづらに立つ波のことであり、「こ」では、誠意のない男の、口説き文句を指してゐます。

あなたの浮氣な誘ひかけを眞に受けてしまつたら、どつせいづれは泣くことになるに決まつてゐるのですから、いくら口説かれても、心は動かしませんよ、と拒絶の意を表したので

(9)

作られたのは、「堀河院艶書合」ほりかはるんけさつぶみあはせ(「の席でのことです。」「艶」を「けさつ」と読んでみますが、「懸想」に別の漢字を宛てたもの。

「懸想」とは「想ひを懸ける」といふことから、「戀」のこと。それに「艶」を宛てるのも納得が行くでせう。

祐子内親王家紀伊は祐子内親王の家に仕へる、紀伊といふ名の女房です。戀の歌の歌合ですから、男と女が戀の歌の應答をするといふ遊技です。

まづ、紀伊の相ひ方になつた男が次のやうな歌を詠みかけました。

人知れぬ思ひありその浦風に波のよるこそ言はまほしけれ

「ありそ」は「思ひあり」と「荒磯(ありそ)」の懸詞になつてゐます。「荒磯」は araiso の母音が一つ脱落して、ariso になつたものです。

また、「よる」は「(波の)寄る」と「夜」の懸詞。

「人知れぬ思ひあり」と言ひ掛け、「浦風」を間に挟んで話を轉じ、「夜には戀の思ひをあなたに語りたい」と結論を導き出しました。

「言はまほし」は「言ひたい」。愛を告白したいのです。

(10)

この紀伊に向つて歌を詠みかけた男が、さきほどの「契りありて」の歌の作者である忠家の息子、俊忠です。つまり、俊成の父であり、定家の祖父といふわけ。

いづれも百人一首には採用されてゐませんが、百人一首のうちの二首の歌に關聯する、別の二首の歌の作者が定家の曾祖父と祖父なのです。

言ふまでもなく、百人一首を選んだのは定家であり、定家自身(前述)とその父俊成の歌は採録されてゐます。定家は相當に意識して、自分の先祖を引立てたものを思はれます。忠家と俊忠を百人一首そのものに入れなかつただけ、謙虚だつたと言ふべきでせうか。

(11)

この歌合のとき、俊忠は二十九歳。

それに對して、紀伊は七十を超えてゐたと言はれます。

本當に戀ひ焦がれて作つた歌ではなく、歌合のために作つた、藝術至上主義の歌なので、年差を知つて驚く必要はありません。